

4 本時の学習 (5/9時間) 【5年生】

(1) 目標 広島に行ってから「綾」の心情を捉え、物語全体を通した、心情の変化をまとめ、伝えることができる。

(2) 展開

指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)	学習活動 (◇予想される児童の発言)	時間	過程	直間	過程	時間	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)
	1 めあてをつかむ (1)前時までに学習を振り返る。 ◇広島に行く前と後の「綾」の心情を表す言葉やその時の心情をまとめたな。 【めあて】物語全体を通した「綾」の心情や物の見方の変化をまとめ、伝え合おう。	5分	き 導 入	間 直	き 導 入	5分	○前時までの学習を生かしていきたいことを伝えることで、本時の学習につなぐようにする。 【めあて】「五月」と「十二月」を比べ、宮沢賢治が「やまなし」にこめた思いについて考えを伝え合おう。
(見方・考え方を働かせて改題解決に向かう方向付け) ○学習の進め方の見通しを持たせるため、学習シートに絵を入れ、対比しやすくする。 「問い」を生み出す手立て ○「ただの」ということばを意識させ、「ただ」ではないとはどんな内容なのかを考えられるようにする。	2 課題の解決に向けて活動する。 (3)ただの川、ただの名前は、綾にとって、捉え方はどう変化したか、自分の考えをまとめる。 ◇ただの川 →関心のある川 過去がある川 多くの人が死んだ川 ただの名前 (アヤ) →そのときまで生きていた人の名前、原爆で死んだ人の名前 アヤちゃんだけでなく、それぞれがもっていた大切な名前 (4)全体で考えを出し合い、多くの人が死んだ川、確かに生きていたアヤという人間の名前であることを押さえる。 (5)よく知らないただの美しい川、ただの名前は、広島に行った後、どう変わったのか考える。 ◇【川】 多くの人が死んでいった川 【名前 (アヤ)】 夢や希望を持って生きていた女の子の名前 多くの人が死んでいった川 夢や希望を持っていた女の子の名前 (6)3人班で考えを出し合い、班の考えをまとめる。 (7)全体で、考えを共有し、まとめる。	10分	よ 展 開	間 間	よ 展 開	7分	(個に応じた支援) ○根拠となる表現等をキーワードとして確認する。 ○「題名は『やまなし』でなければならなかったのか」と問うことで、自分の結論に対する理由付けとして自分の考えをまとめられるようにする。 (言語活動の設定及び設定の意図) ○自分の考えと他者の考えを比較する活動を設定することで、児童の考えの変容をねらう。
【具体的評価規準】観点 ○【思C】心情の変化などを捉えて、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 (方法：タブレット、学習シート・発言) 【到達していない児童への手立て】 ○前の場面と比べて、どうなったかを問い、手がかりにできるようにする。		5分	よ	間 直	よ	5分	(見方・え方を働かせて改題解決に向かう方向付け) ○対比的に描かれてる表現 (五月の描写、十二月の描写) に着目し、自分の考えをまとめる蔡の理由付けに生かせるようにする。 ○グループでまとめたことをタブレットにまとめて、全体に示すことで、どの表現に着目したのかがわかるようにする。 (課題解決に粘り強く取り組もうとするための手立て)
(個に応じた支援) ○前までの時間までにまとめた物語に現れたものや綾の心情のシートを見直し、考え方を捉え、文章中の言葉を手がかりとできるようにする。 (言語活動の設定及び設定の意図) ○自分の考えと他者の考えを比較する活動を設定することで、児童の考えの変容をねらう。		5分	よ	間 直	よ	5分	【具体的評価規準】 ○【思①】対比的に描かれている表現 (「五月の描写、十二月の描写」) を根拠として、作者の伝えたい事について考えている。 (方法：学習シート・発言)
○学習課題に対する答えをまとめる。 【まとめ】物語全体を通して、「綾」にとって、広島につくまでは他人事だったが、広島に行っているんなものにふれ、「アヤ」や原爆のことが自分事になった。		5分	よ	間 直	よ	5分	【到達していない児童への手立て】 ○板書などを基に、「五月」「十二月」で何が表現されていたか、考えを確かめていく。
	3 学習課題に対するまとめ、めあてに対する振り返りをする。 (7)広島につくまでと、行った後で、アヤの名前や川、町などへの捉え方がどう変わったのか、自分の考えをまとめる。	10分	き 終 末	間 直	き 終 末	5分	○学習課題に対する答えをまとめる。
	【期待される学びの姿】 前と後での「川」や「アヤ」への思いの変化を考えるを通して、「綾」の心情の変化をとらえている。 (9) 本時の振り返りをする。 学習を通して、 ・「なぜ」「なるほど」「もっとやってみよう」のどれかの視点で、綾の心情の変化や捉え方について心に残ったことをまとめる。 ◇わたしは、ただの〇〇の「ただの」を深く考えていなかったけど、大切な言葉と言うことに気づきました。	5分	き 終 末	間 直	き 終 末	5分	○めあてに対する学習内容の振り返りをする。その際、4Cのどの視点で振り返ったのかを示す。(学習シート)

4 本時の学習 (5/9時間) 【6年生】

(1) 目標 「五月」と「十二月」の場面を読み、なぜその題名にしたのかを話し合うことを通して、作者が作品の世界にこめた思いをとらえることができる。

(2) 展開

指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)	学習活動 (◇予想される児童の発言)	時間	過程	直間	過程	時間	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)
	1 課題をつかむ (1)前時までの学習を振り返る ◇二枚の幻灯には、たとえの表現や色の表現がたくさんあったな。 【めあて】「五月」と「十二月」を比べ、宮沢賢治が「やまなし」にこめた思いについて考えを伝え合おう。	5分	き 導 入	間 直	き 導 入	5分	○前時までの学習を生かしていきたいことを伝えることで、本時の学習につなぐようにする。 【めあて】「五月」と「十二月」を比べ、宮沢賢治が「やまなし」にこめた思いについて考えを伝え合おう。
	(2)学習課題を持つ ●宮沢賢治は、どうして題名を「やまなし」にしたのだろう	5分	き 導 入	間 直	き 導 入	5分	○前時までの学習を生かしていきたいことを伝えることで、本時の学習につなぐようにする。 【めあて】「五月」と「十二月」を比べ、宮沢賢治が「やまなし」にこめた思いについて考えを伝え合おう。
	2 課題解決に向けて活動する (3) 「五月」と「十二月」を対比する。 ・5月と12月から浮かび上がるイメージとその根拠をまとめる。 (4) 自分の考えを持ち、用紙に書く ◇ 五月 十二月 かわせみ やまなし 青白い水の底 白いやわらかな丸石 死 殺されたよ 水はサラサラなり 恐怖 不気味 喜び 恵み など	7分	よ 展 開	間 間	よ 展 開	7分	(個に応じた支援) ○根拠となる表現等をキーワードとして確認する。 ○「題名は『やまなし』でなければならなかったのか」と問うことで、自分の結論に対する理由付けとして自分の考えをまとめられるようにする。 (言語活動の設定及び設定の意図) ○自分の考えと他者の考えを比較する活動を設定することで、児童の考えの変容をねらう。
	(5) 他者との対話により、「やまなし」から受けるイメージを共有する。	3分	よ	間 直	よ	3分	(見方・え方を働かせて改題解決に向かう方向付け) ○対比的に描かれてる表現 (五月の描写、十二月の描写) に着目し、自分の考えをまとめる蔡の理由付けに生かせるようにする。 ○グループでまとめたことをタブレットにまとめて、全体に示すことで、どの表現に着目したのかがわかるようにする。 (課題解決に粘り強く取り組もうとするための手立て)
	(6) それぞれの考えを黒板に貼る。そのとき、ある程度分類しながら貼っていく。 (五月 青 十二月 ピンク)	5分	よ	間 直	よ	5分	(見方・え方を働かせて改題解決に向かう方向付け) ○対比的に描かれてる表現 (五月の描写、十二月の描写) に着目し、自分の考えをまとめる蔡の理由付けに生かせるようにする。 ○グループでまとめたことをタブレットにまとめて、全体に示すことで、どの表現に着目したのかがわかるようにする。 (課題解決に粘り強く取り組もうとするための手立て)
	(7)宮沢賢治は、どうして題名を「やまなし」としたのか、自分の考えを書く。その際、根拠となる言葉や文などを合わせてまとめる。 ◇「やまなし」にすることで、自然のすばらしさを伝えなかったから。理由は・・・	10分	よ	間 直	よ	10分	(見方・え方を働かせて改題解決に向かう方向付け) ○対比的に描かれてる表現 (五月の描写、十二月の描写) に着目し、自分の考えをまとめる蔡の理由付けに生かせるようにする。 ○グループでまとめたことをタブレットにまとめて、全体に示すことで、どの表現に着目したのかがわかるようにする。 (課題解決に粘り強く取り組もうとするための手立て)
	【期待される学びの姿】 「五月」と「十二月」を対比して、題名について考えることを通して、作者が伝えたいことをとらえている。	5分	よ	間 直	よ	5分	(見方・え方を働かせて改題解決に向かう方向付け) ○対比的に描かれてる表現 (五月の描写、十二月の描写) に着目し、自分の考えをまとめる蔡の理由付けに生かせるようにする。 ○グループでまとめたことをタブレットにまとめて、全体に示すことで、どの表現に着目したのかがわかるようにする。 (課題解決に粘り強く取り組もうとするための手立て)
	(8)3・4人班で考えを交流し、班としての考えをまとめる。	5分	よ	間 直	よ	5分	(見方・え方を働かせて改題解決に向かう方向付け) ○対比的に描かれてる表現 (五月の描写、十二月の描写) に着目し、自分の考えをまとめる蔡の理由付けに生かせるようにする。 ○グループでまとめたことをタブレットにまとめて、全体に示すことで、どの表現に着目したのかがわかるようにする。 (課題解決に粘り強く取り組もうとするための手立て)
	(9)全体で考えを共有し、まとめる。	5分	よ	間 直	よ	5分	(見方・え方を働かせて改題解決に向かう方向付け) ○対比的に描かれてる表現 (五月の描写、十二月の描写) に着目し、自分の考えをまとめる蔡の理由付けに生かせるようにする。 ○グループでまとめたことをタブレットにまとめて、全体に示すことで、どの表現に着目したのかがわかるようにする。 (課題解決に粘り強く取り組もうとするための手立て)
	3 学習課題に対するまとめをし、めあてに対する振り返りをする。 【まとめ】宮沢賢治は、題名を「やまなし」とすることで、自然のこわさよりも、自然恵みを読者に伝えなかった。	5分	き 終 末	間 直	き 終 末	5分	○学習課題に対する答えをまとめる。
	(10) 本時の振り返りをする。 学習を通して、 ・「なぜ」「なるほど」「もっとやってみよう」のどれかの視点で、宮沢賢治が、「やまなし」に込めた思いについてまとめる。 ◇ぼくは、〇〇さんの、△△という考えを聞いて、宮沢賢治の思いが分かった気がしました。	5分	き 終 末	間 直	き 終 末	5分	○めあてに対する学習内容の振り返りをする。その際、4Cのどの視点で振り返ったのかを示す。(学習シート)